

設統合の際に“総論
という部分が出やす
り、ファシリティマネジ
て、どのようなサービ
るか、他地域との比
の裏付けを取りなが
えや思いを巡らしても
に本格的に進めてい

昨年発覚した免震ゴムの偽装や杭
データの改ざんに触れ、「一部の人間
が行ったことが業界を足元を揺るがす
こととなる。設
計事務所がど
ういう立場な
のかを見つめ
直し、信頼回
復を図ってい



乾杯のようす

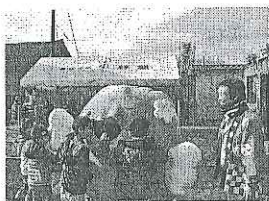
橋ライン改善に係る
第1段階として新年
の流作場四つ角(流
の約500m区間にお
ンターライン走行(道
る専用走行)と島式
けた社会実験を県警
実施し、その後、万代
谷小路区間、榎谷小
に社会実験を行って
レーン走行に向かい
な運用時期は「社会
検討する」とした。

収穫祭に近隣住民約70名が来場

現場で栽培した野菜使い芋煮を振る舞う

住民とのコミュニケーション図る—小林組

(株)小林組(阿賀野市、小林孝代表取締役社長)は12月26日、同社が施工を務める「栗ノ木道路地表道路改良その2工事」の現場内で、工事説明や近隣住民とのコミュニケーションを図るため



収穫祭のようす

の収穫祭を開催、近隣住民など約70名が来場した=写真。

これは、同社が三方良しの取組として昨年8月に続き開催したもの。来場者には、同社が現場内の農園で栽培した白菜や地元阿賀野市の里芋を使った芋煮や玉こんにゃくなどが振る舞われたほか、阿賀野市のゆるキャラである「ごずっちょ」も参加し、子供達と交流した。また、同現場では歩道と車道(1車線部)が既に完成形となっており、来場者も道路の様子に関心を向けていた。

等変更ガイドライン

事例集—北陸地整
企画部は12月24日、
(測量、地質調査、土
査・計画)に係る変更
例集」を作成した。
土木設計業務等発注
な運用へ昨年3月30
を開始した「土木設計
ライン」の理解を助
方において実際に発
計業務等の「設計変
と「ならなかった事例」
本事例集の活用によ
きの円滑化がより一
するとともに、引き続

き事例の収集を図り、より一層「設計変更手続きの円滑化」の推進に寄与したいとしている(内容は局HP:<http://www.hrr.mlit.go.jp/>に掲載)。

新社長に齋藤正樹氏が就任

本社事務所を中央区山二ツへ移転 ——— 永光建設(株)

新潟市の永光建設(株)は、代表取締役社長の齋藤正人氏が代表取締役会長に就任し、後任の新代表取締役社長に齋藤正樹氏が就任した。また、新潟本社事務所を新潟市中央区山二ツ144番地へ移転した。郵便番号は950-2022。電話とFAXは従来どおり。

守っていかねば意味がない」と、法令順守の徹底を呼びかけた。

また、坂本会長は今年の抱負として、若者の入職に向けた取り組みを挙げ、「若い人に、この業界に入って力を振るって欲しい」と述べ、同協会が中心となって制作したDVDや学校訪問を通じて、建築の魅力について積極的に伝えていく考えを示した。

同社の小林孝章専務取締役は、イベントについて「今までの建設業のイメージを変えたいと考えて発案した。工事を進める上でも、住民とのコミュニケーションが一番重要だと思う」と開催意義を語った。

イルミネーションを2月末まで点灯
また同社では、同工事と並行して進められている「栗ノ木道路栗ノ木川付替その4工事」で、栗ノ木バイパス沿いにイルミネーションの展示も行っている。こちらは、2月末ころまで夜間点灯する予定だ。



イルミネーションの展示